

## 目次

### (151) 共用品推進機構関連記事

- ▽「傘と共用品～傘を通じて共用品を考える  
より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」
- ▽「ブログを更新しました！」

### (152) 製品関連記事

- ▽「骨伝導でも低音域再現／ゴールデンダンス」

### (153) 新刊紹介

- ▽『バリアフリー温泉で家族旅行  
とっておきの親孝行旅行に。3世代での大家族旅行に。』
- ▽『知られざる色覚異常の真実』

---

### (151) 共用品推進機構関連記事

- ▼「傘と共用品～傘を通じて共用品を考える  
より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」

これまでに、共用品の開発に関わった人たちは数知れず、その数だけ努力や実践がありました。ただ、考える方向性が違っていると、いくら頑張っても「共用品」にはなりません。「考える方向性」とはどんな方向性なのか。今回は、誰もが身近な「傘」を例にお伝えできたらと思います。

共用品推進機構の事業に参加してもらっている方々に、「どんな傘を購入したいですか？」という質問を行ってみました。

ご協力いただいた人達は、それぞれの不便さは異なりますが、共通のニーズが出てきました。

さしている時に両手が使える傘、視野が広く見える傘、誘導者等と二人で

入れる傘、雨音が響かず静かな傘。

希望した傘が、世の中にないのかを確認するために、傘専門店を訪問してきました。東京の自由が丘にある店は、「Cool Magic Shu's (クールマジックシューズ)」。同社は傘作りの専門メーカーで、傘市場の17%を占め、数にすると2010万本、500種類にのぼります。

ヒットしている傘の中には、今回のニーズにあったものもありました。「プレミアムスーパーロング」。親骨サイズが80センチある大きなサイズの傘です。

「バッグに優しい傘」。傘の軸を中心からずらすことによって、鞆を覆う面積を大きくすることができます。この工夫は、介護や誘導する人をも雨から守ることにつながりました。

誰かの不便さを解決しようとする、より多くの人への便利につながっていくことを、誰にとっても身近な「傘」で学ぶことができました。

いろいろなアイデアが、コストや技術の課題を解決し、世の中に出てくることを願っています。

(福祉介護テクノプラス 2015年8月号より抜粋)

#### ▼「ブログを更新しました！」

・スイス・ジュネーブ「WSC Workshop on Conformity Assessment」に出席  
共用品ニュース(ブログ) <http://www.kyoyohin-news.org/>

---

#### (152) 製品関連記事

#### ▼「骨伝導でも低音域再現／ゴールドダンス」

ゴールドダンスは「超福祉展」で「Goldendance AQUA」を出展した。同製品は振動板を使った「ダイナミックタイプ」と呼ばれる骨伝導ヘッドホンだ。骨伝導は、蝸牛(かぎゅう)に直接振動を伝えることで鼓膜を介さずに音を信号化することができる技術である。

このヘッドホンは、可聴域が非常に広いことが特徴だ。通常の骨伝導ヘッドホンでは3000~5000Hzと音域に限られるが、Goldendance AQUAは50~1万2000Hzの音域に対応するという。

コンセプトは「音を着る」。「超福祉展」で実際に聴いてみた。小さな音

までもクリアに拾う精度は驚くほど。いわゆる「補聴器」ではないが、聴覚障害、特に耳の遠くなった高齢者などにとってはさまざまなシーンでの活用が期待できるだろう。

(日経産業新聞 12月07日9面より抜粋)

---

### (153) 新刊紹介

#### ▼『バリアフリー温泉で家族旅行

とっておきの親孝行旅行に。3世代での大家族旅行に。』

体の不自由な人や、足腰の弱った人でも快適に泊まれる、設備と宿側の心がバリアフリーな宿を厳選。旅の介助を頼めるトラベルヘルパーなども紹介する。予約前に確認すべきチェックリスト付き。

著：山崎まゆみ（やまざき・まゆみ）

発行：昭文社

本体価格：1500円（税別）

ISBN：978-4-398-13283-3

#### ▼『知られざる色覚異常の真実』

赤信号に気づかない。炎が小さく見える…。先天色覚異常だけではなく、40歳以上なら誰にも発生する加齢による色覚異常の発見法と対策法をわかりやすく紹介。第57回日本産業・労働・交通眼科学会での講演内容を元に書籍化。

著：市川一夫（いちかわ・かずお）

発行：幻冬舎メディアコンサルティング

本体価格：1200円（税別）

ISBN：978-4-344-97300-8

---

### (編集後記)

先週12月1日、2日、ジュネーブでのWSC（ISO、IEC、ITUの3つの国際標準化機関の協力組織）のワークショップに出席しました。WSCは毎年、ワークショップやカンファレンスを開催しています。2010年には「アクセシビリ

ティ」のワークショップが開催され、当機構も発表を行いました。

今年のテーマは「適合性評価」であり、AD製品の適合性評価を検討しているため、これに参加しました。約100名が参加し、「エネルギー効率」、「世界的な適合性評価の枠組み」、「偽物製品と証明書」、「法規制の選択肢とリスク管理」の4つの議題について、延べ20名のスピーカーが発表を行いました。

その中でドイツの認証試験機関であるラインランド社が、QRコード（検査済マークと併記されている）をスマートフォンで読み取ることにより、試験内容、試験は任意か強制か、証明書の有効期限等の情報を入手できるシステムの説明があり、参考になりました。

会議の様子、ジュネーブの風景は、ブログにアップしましたのでご覧ください。（松岡光一）

<http://www.kyoyohin-news.org/>

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>